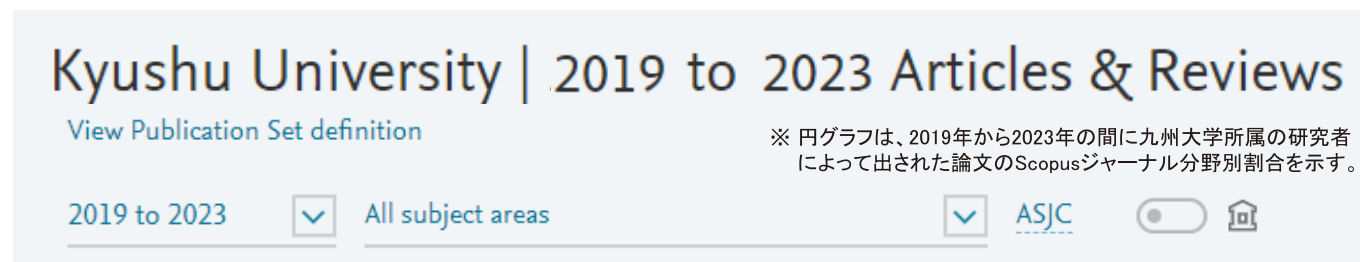


9. 研究

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向



Overall research performance

22,140

論文数
Scholarly Output

99,607

著者数
Authors

1.16

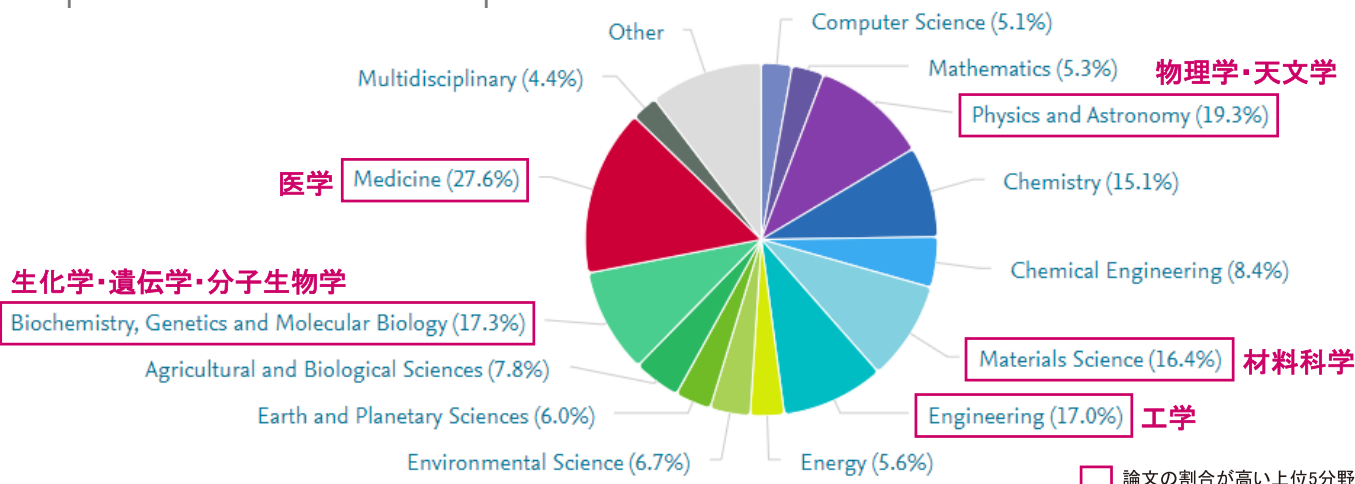
FWCI (※1)
Field-Weighted Citation Impact

316,627

被引用数
Citation Count

14.3

一論文当たりの被引用数
Citations per Publication



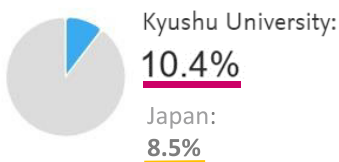
Performance indicators

Outputs in Top Citation Percentiles ①

Publications in top 10% most cited worldwide

Show as field-weighted

トップ10%補正論文

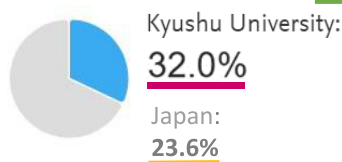


Publications in Top Journal Percentiles ①

Publications in top 10% journals

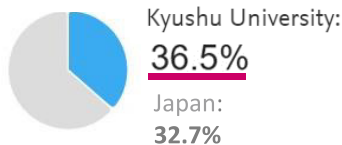
by CiteScore Percentile ☐

トップ10%ジャーナル掲載論文



International Collaboration ①

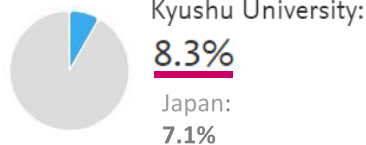
Publications co-authored with Institutions in other countries/regions



国際共著論文

Academic-Corporate Collaboration ①

Publications with both academic and corporate affiliations



産学共著論文

九州大学
日本平均

(※1) FWCI(Field-weighted Citation Impact): 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、ジャーナル評価指標: CiteScore Percentile、自己引用: 含む、分野補正: TOP10%補正論文 有; 国際共著論文 無

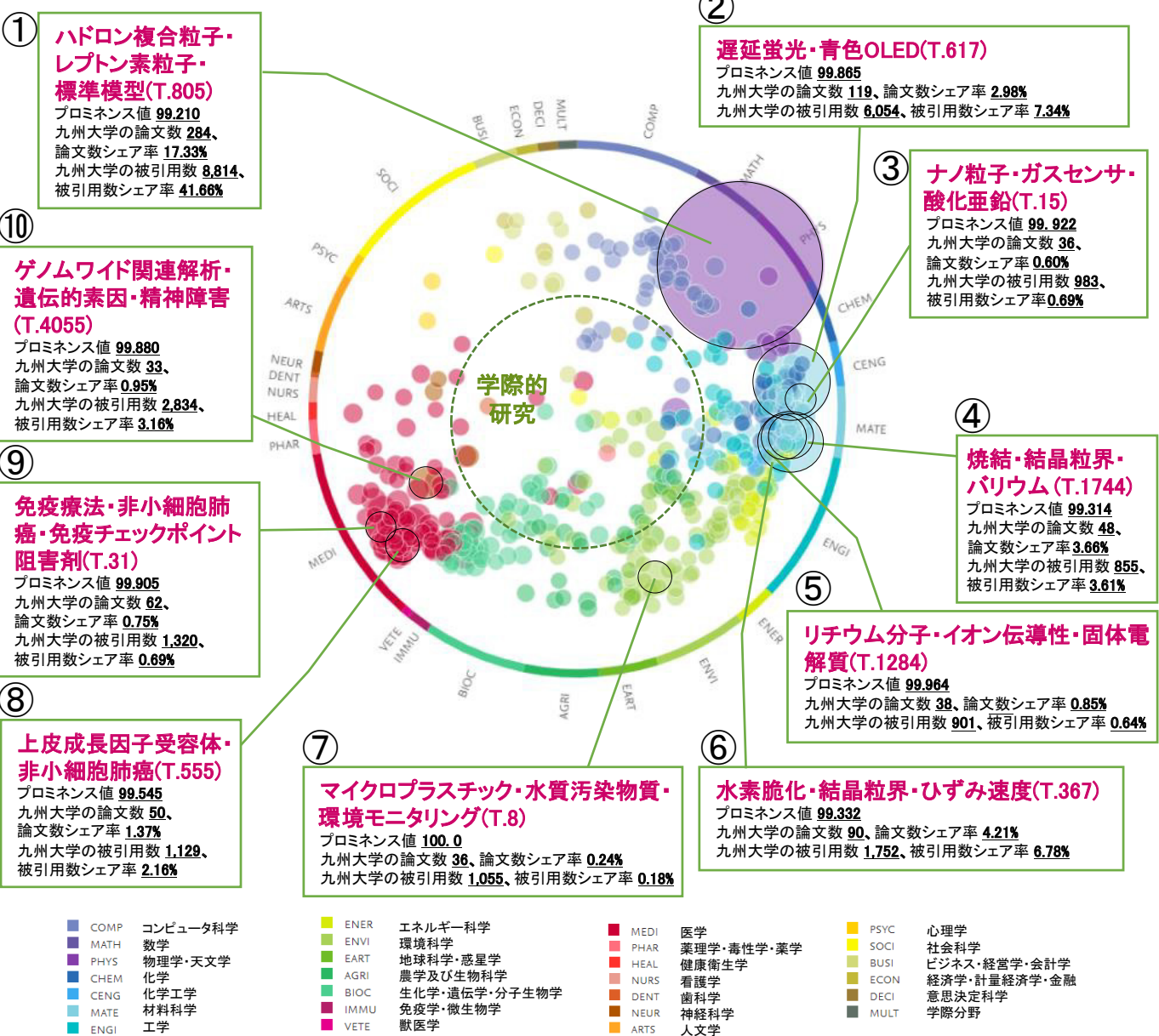
出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向(つづき)

トピックプロミネンス(注目度)ー論文の引用関係に基づいた大学の強み研究分析ー

プロミネンス上位1%のトピック (2019-2023)

①～⑩はプロミネンス上位1%のトピックの内、論文数の多い上位10トピック
これらのトピックは本学の論文数が多く、本学の中でも活発な研究分野と言える。



◆トピックのプロミネンスについて◆
Scopusの文献を引用リンクに基づいて約94,000のトピックおよび約1,500のトピッククラスターにクラスタリングし、Prominenceによってランク付けされている。Prominenceは、直近の文献の被引用数、Scopus表示回数、CiteScoreを見ることによってトピックの現在の勢い、注目度を示す。最も高いProminenceパーセンタイルは100である。Prominenceは、助成金と相関関係があり、研究者や管理者が助成金が増える可能性が高いトピックを特定するのを支援する。2019年から2023年の間に出版された九州大学の論文のうち、8,348の研究分野が注目度の高いトピックとして出現している。また、トピックのプロミネンスは、3つの指標「①n年とn-1年に発表された文献に対するn年の被引用数、②n年とn-1年に発表された文献に対するn年のScopus表示回数、③n年の平均CiteScore」を組み合わせて計算することで、トピックの勢いを示している。
※2024年5月に「次世代SciValトピック」が導入されたことに伴い、トピックセットが更新されたため、旧世代による過去の「Fact Book」データの単純比較ができないことに留意。

◆見方◆
・外側の円周: Scopusで用いられている研究分野(ASJCの27中分類)を色別に表示。
・小さい円: 各トピック。
・小さい円の大きさ: 各トピックを構成する論文の数を表す。
・小さい円の色: トピックを構成する論文の分野のうち、割合が最も大きい分野を円周上の分野の色で示したもの。
・小さい円の位置: トピックを構成する論文の分野の割合に基づいて配置されている。学際的なものは中心に位置する傾向にある。

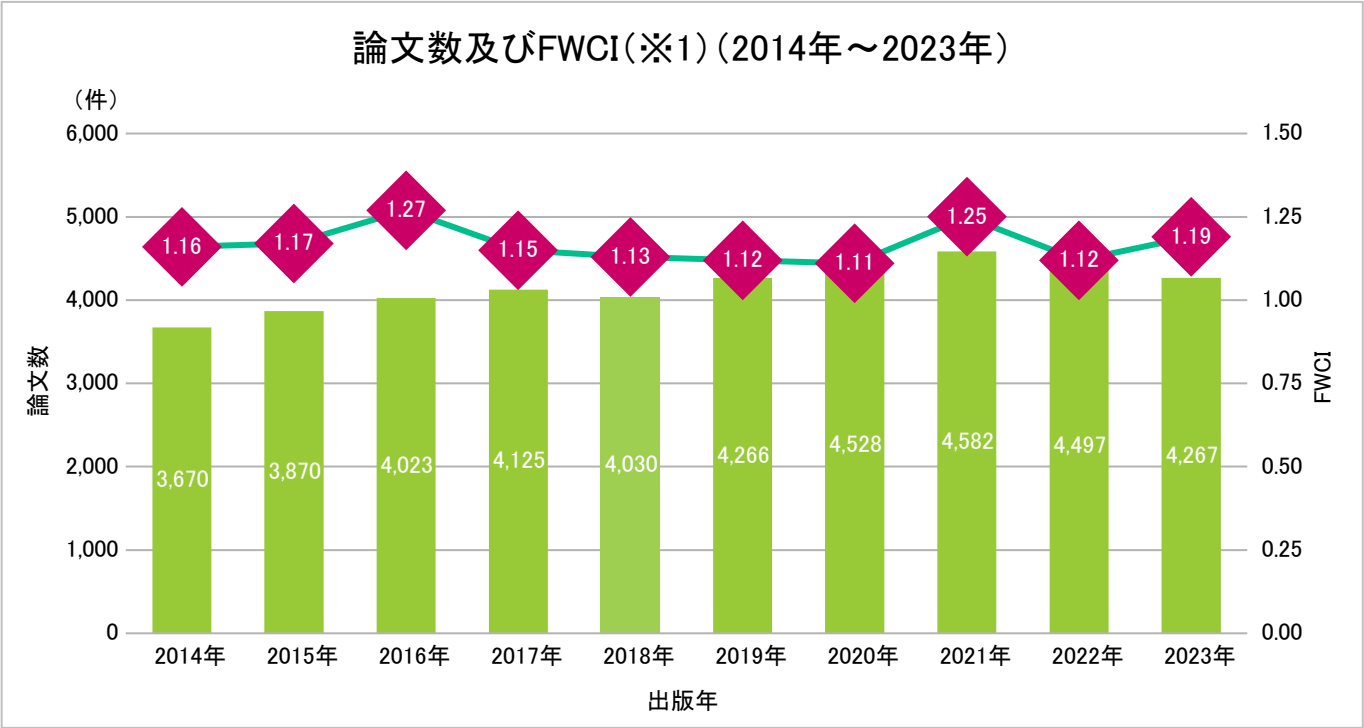
論文指標の抽出条件
文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

出典: Elsevier社「SciVal Topic Prominence」(2024年9月現在)、Elsevier社 Webサイト (<https://www.elsevier.com/ja-jp/products/scival/overview/topics>)

9-2. 論文の量と質についての比較

■論文数及びFWCIの推移

◆九州大学◆



◆RU11(※2)での比較◆

【Scholarly Output (論文数)】

順位	大学名	論文数
1	東京大	54,865
2	京都大	37,270
3	大阪大	30,046
4	東北大	28,703
5	名古屋大	22,588
6	九州大	22,140
7	北海道大	21,414
8	筑波大	16,816
9	慶應義塾大	15,102
10	東京工業大	14,746
11	早稲田大	9,719

(2019～2023)

【Citation Count (被引用数)】

順位	大学名	被引用数	論文あたりの平均被引用数
1	東京大	946,518	17.3
2	京都大	564,318	15.1
3	大阪大	425,825	14.2
4	東北大	383,843	13.4
5	名古屋大	325,293	14.4
6	九州大	316,627	14.3
7	北海道大	302,009	14.1
8	筑波大	242,279	14.4
9	慶應義塾大	218,080	14.4
10	東京工業大	207,784	14.1
11	早稲田大	123,138	12.7

(2019～2023)

【FWCI (論文のインパクト)】

順位	大学名	FWCI
1	東京大	1.36
2	慶應義塾大	1.23
3	筑波大	1.22
4	京都大	1.20
4	名古屋大	1.20
6	九州大	1.16
7	大阪大	1.15
8	北海道大	1.10
9	早稲田大	1.09
10	東北大	1.06
11	東京工業大	1.05

(2019～2023)

(※1) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※2) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立大学の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

(※3) 「論文の量と質についての比較」における東京工業大のデータについては、2024年10月に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して東京科学大学が設立される前の情報を使用。

論文指標の抽出条件

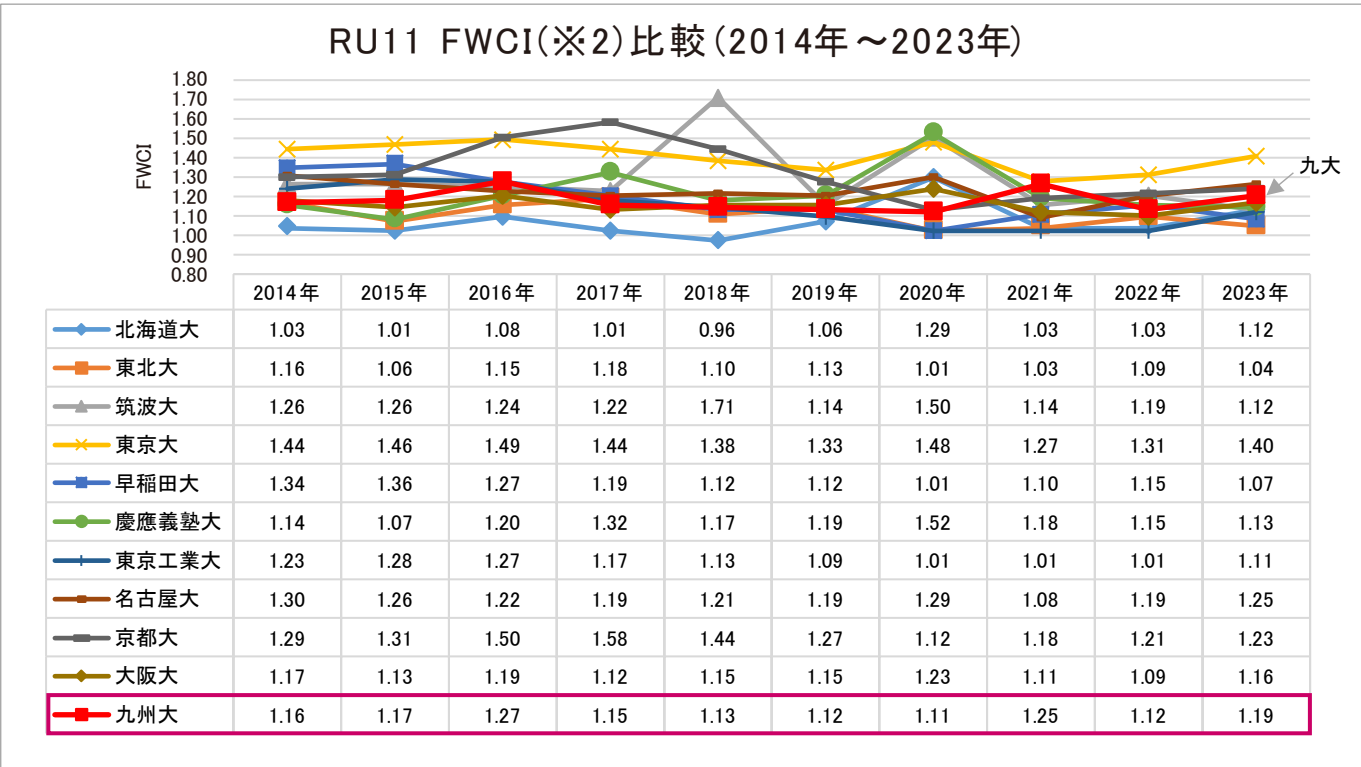
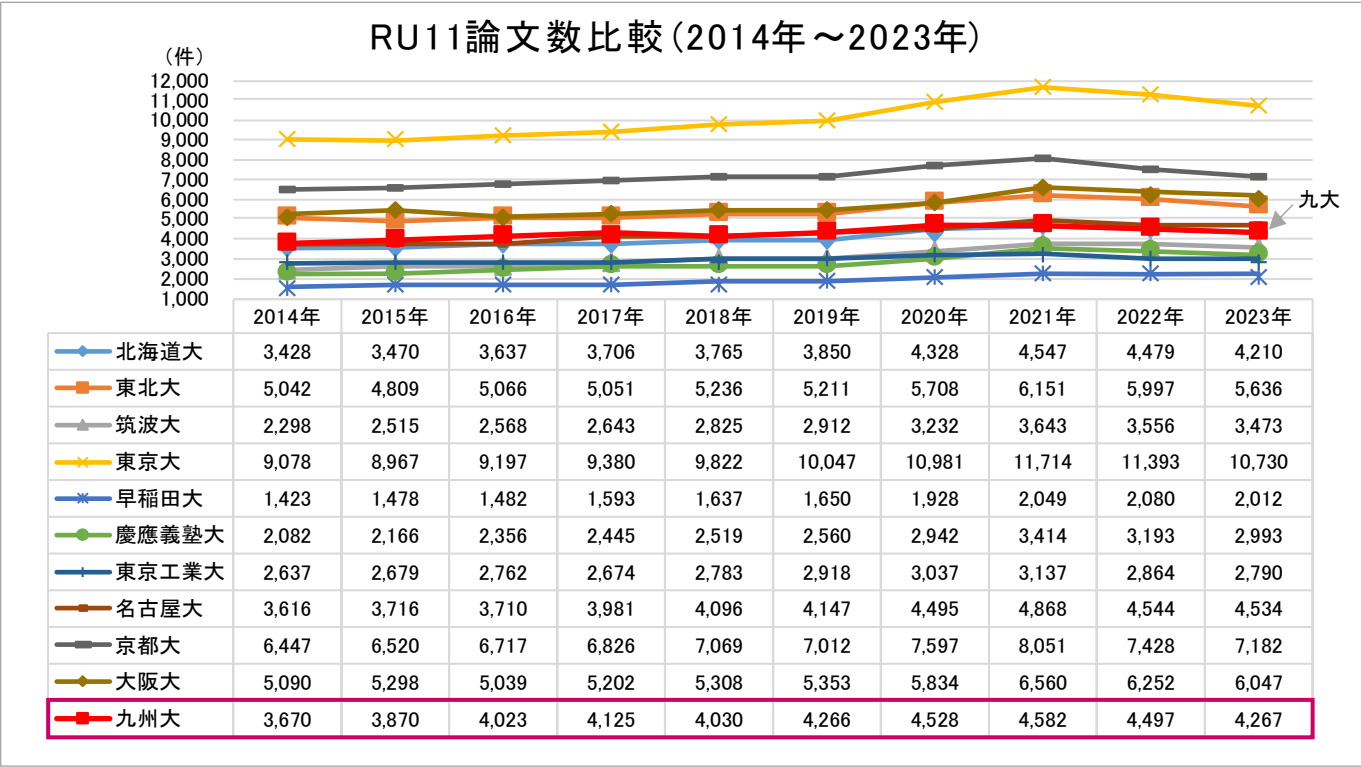
文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

概要・他大学との比較
教職員数等
学生数
志願状況
入学状況
学位取得状況
進路・就職状況
資格試験等
研究
国際
産学官連携
附属病院
収入・支出
研究プログラム及び教育プログラムの提供状況

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆



(※1) RU11(学術研究懇談会)
国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

(※2) FWCI(Field-weighted Citation Impact): 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

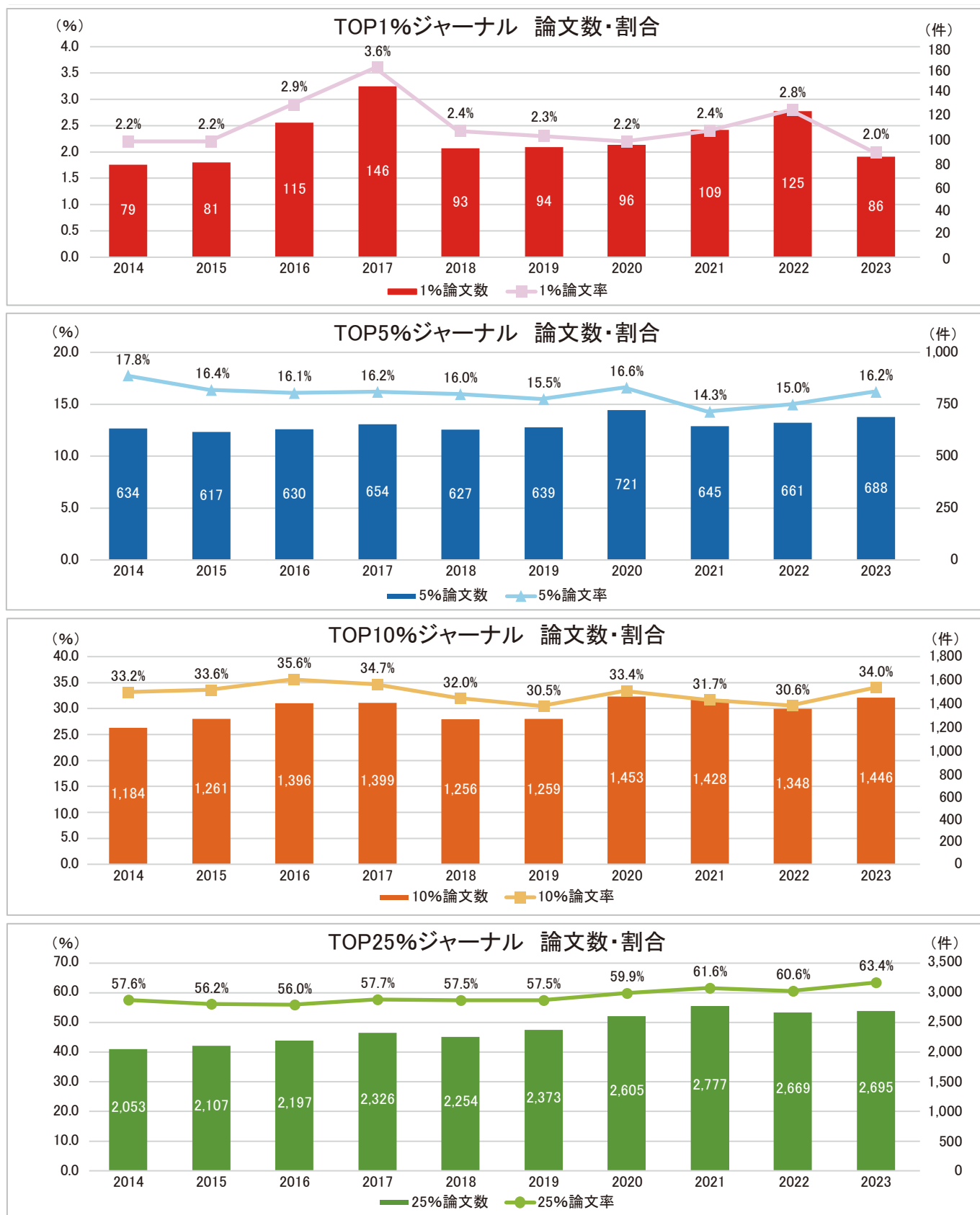
論文指標の抽出条件
文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■世界トップのジャーナルに掲載された論文数と割合推移

◆九州大学◆



・トップx %ジャーナルに掲載された論文数と割合とは…

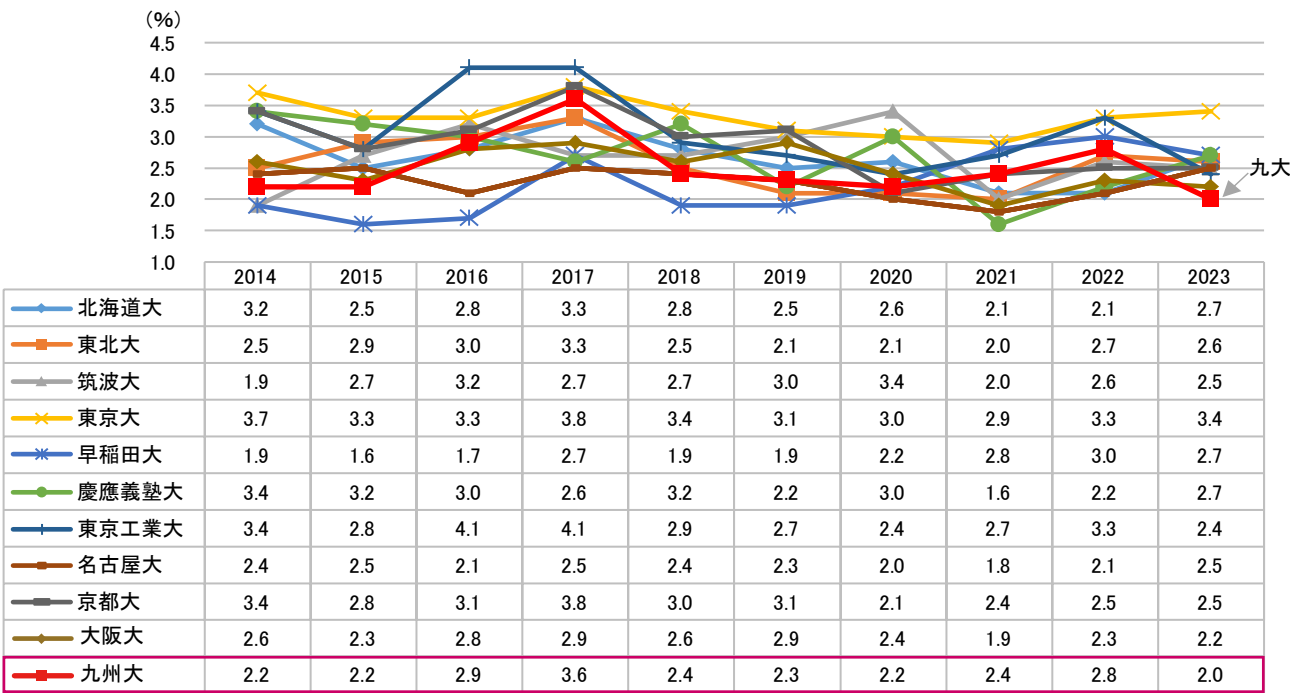
被引用数ベースで世界トップ%ジャーナルに掲載された論文数と割合。Scopus における各年の被引用数を元に、上位1%、5%、10%、25%に含まれるジャーナルに掲載された論文数・割合を示すもの。

出典：Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

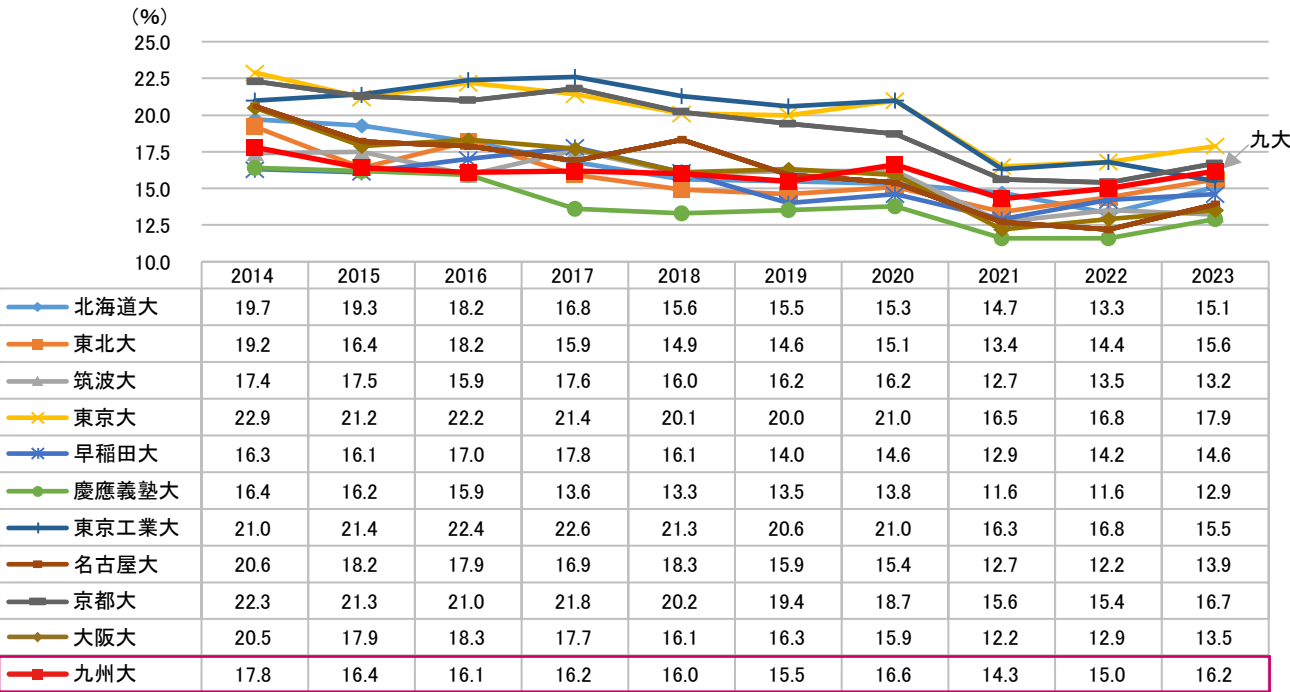
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

◆RU11 (※1) での比較◆

TOP1%ジャーナルに含まれる論文の割合



TOP5%ジャーナルに含まれる論文の割合



(※1) RU11(学術研究懇談会)
国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

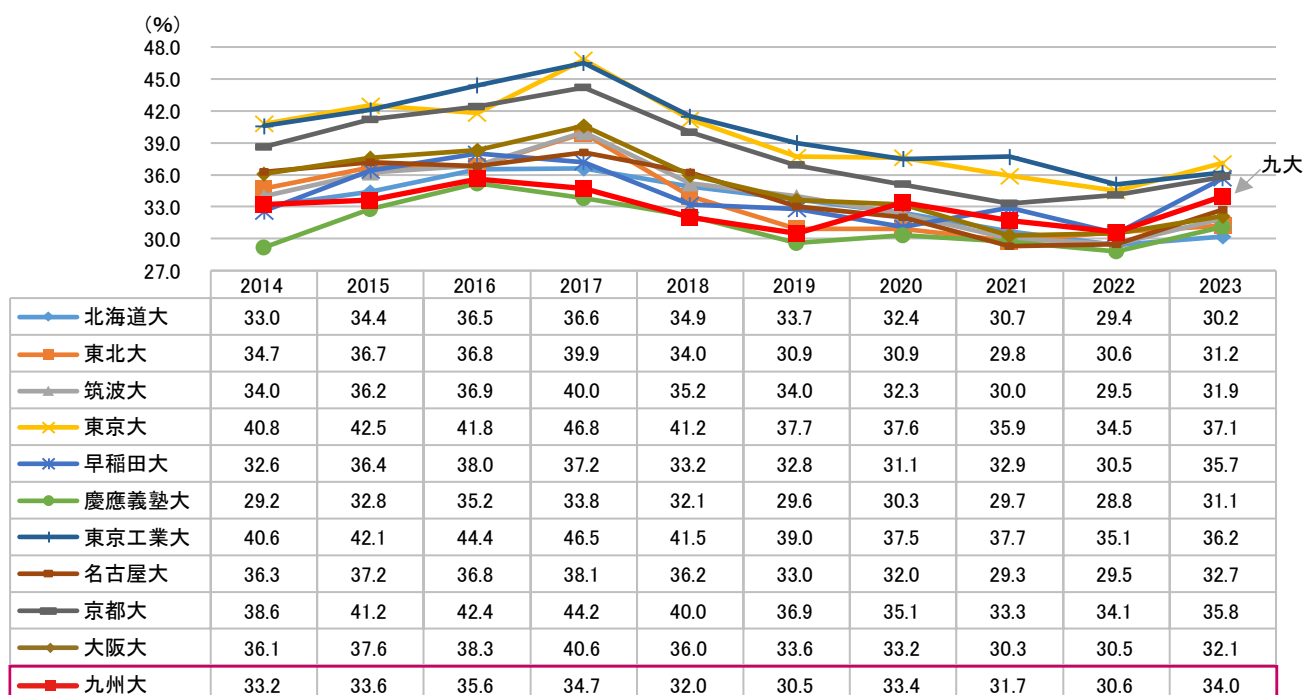
論文指標の抽出条件
文献タイプ: Articles and reviews、ジャーナル評価指標: CiteScore Percentile

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

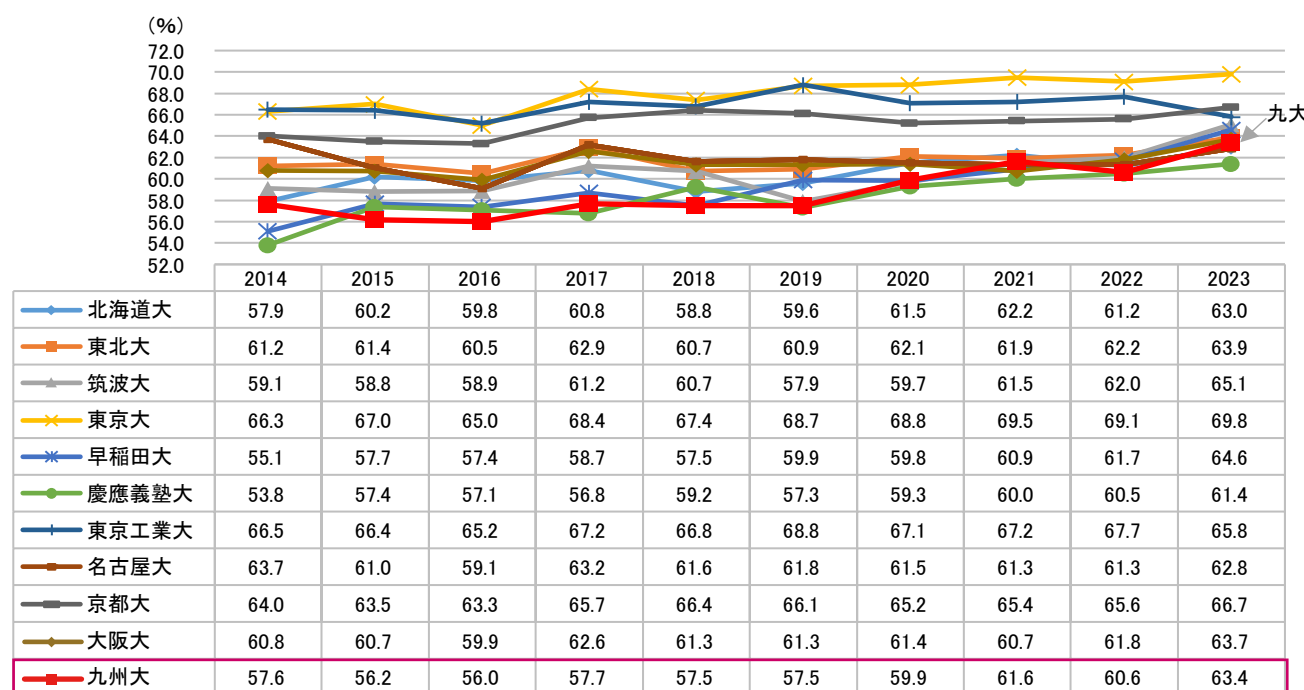
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

◆RU11 (※1) での比較◆(つづき)

TOP10%ジャーナルに含まれる論文の割合



TOP25%ジャーナルに含まれる論文の割合



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、ジャーナル評価指標: CiteScore Percentile

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

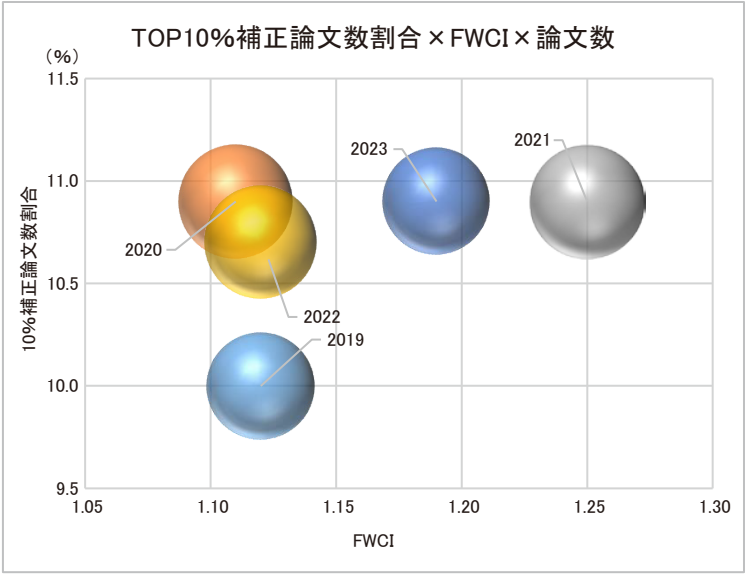
9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■論文の量と質の総合比較

◆九州大学◆ (2019年～2023年)

本学のTOP10%補正論文数割合(※1)(縦軸)×FWCI(※2)(横軸)×論文数(バブル大きさ)

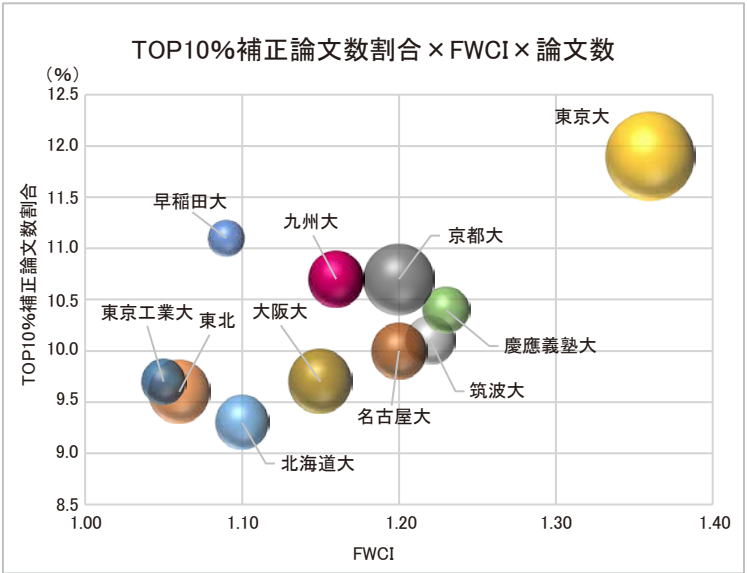
年	TOP10%補正論文数割合(%)	FWCI	論文数
2019	10.0	1.12	4,266
2020	10.9	1.11	4,528
2021	10.9	1.25	4,582
2022	10.7	1.12	4,497
2023	10.9	1.19	4,267
平均	10.7	1.16	4,428



◆RU11(※3)での比較◆ (2019年～2023年の平均)

TOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(横軸)×論文数(バブル大きさ)

大学名	TOP10%補正論文数割合(%)	FWCI	論文数
北海道大	9.3	1.10	4,283
東北大	9.6	1.06	5,741
筑波大	10.1	1.22	3,363
東京大	11.9	1.36	10,973
早稲田大	11.1	1.09	1,944
慶應義塾大	10.4	1.23	3,020
東京工業大	9.7	1.05	2,949
名古屋大	10.0	1.20	4,518
京都大	10.7	1.20	7,454
大阪大	9.7	1.15	6,009
九州大	10.7	1.16	4,428



(※1) TOP10%補正論文数割合
被引用ベースで世界トップに入る論文数(分野補正した値)の割合。Scopusにおける各年の被引用数をもとに上位10%に含まれる論文数の割合を示すもの。

(※2) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※3) RU11(学術研究懇談会)
国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

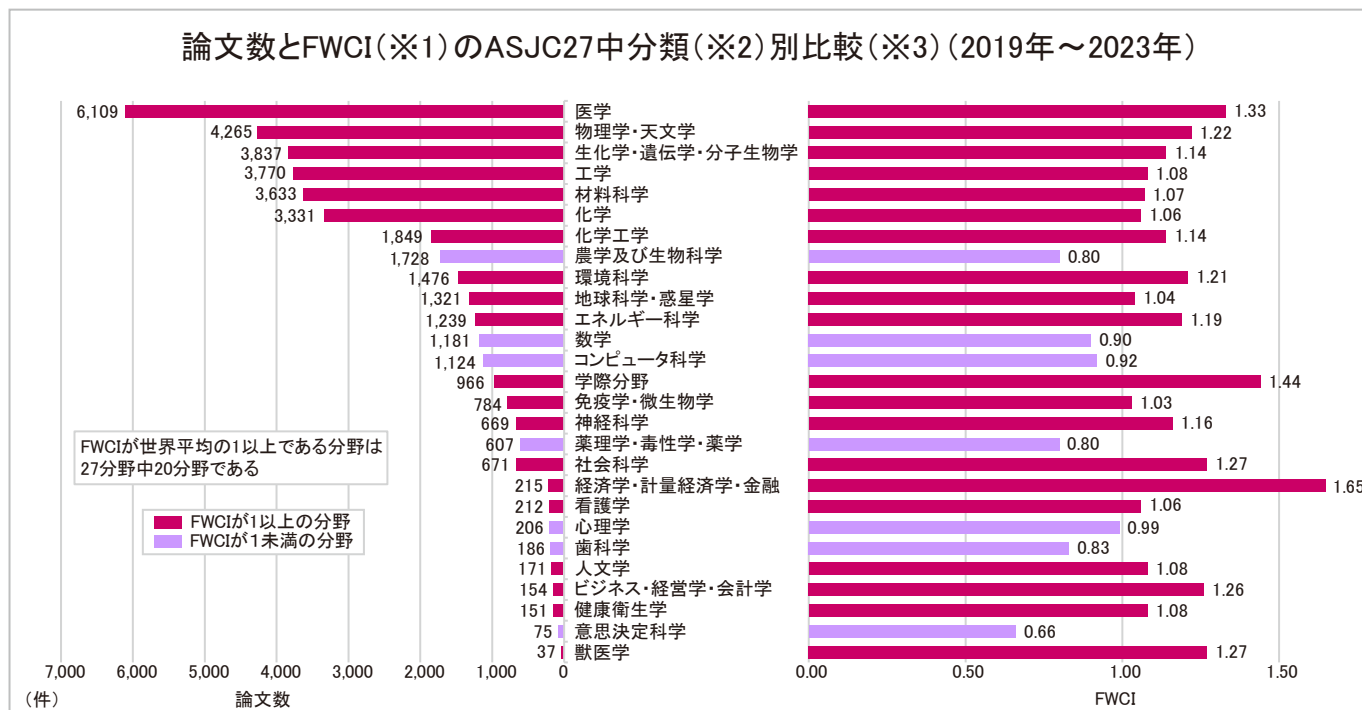
論文指標の抽出条件
文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む、分野補正: 有

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

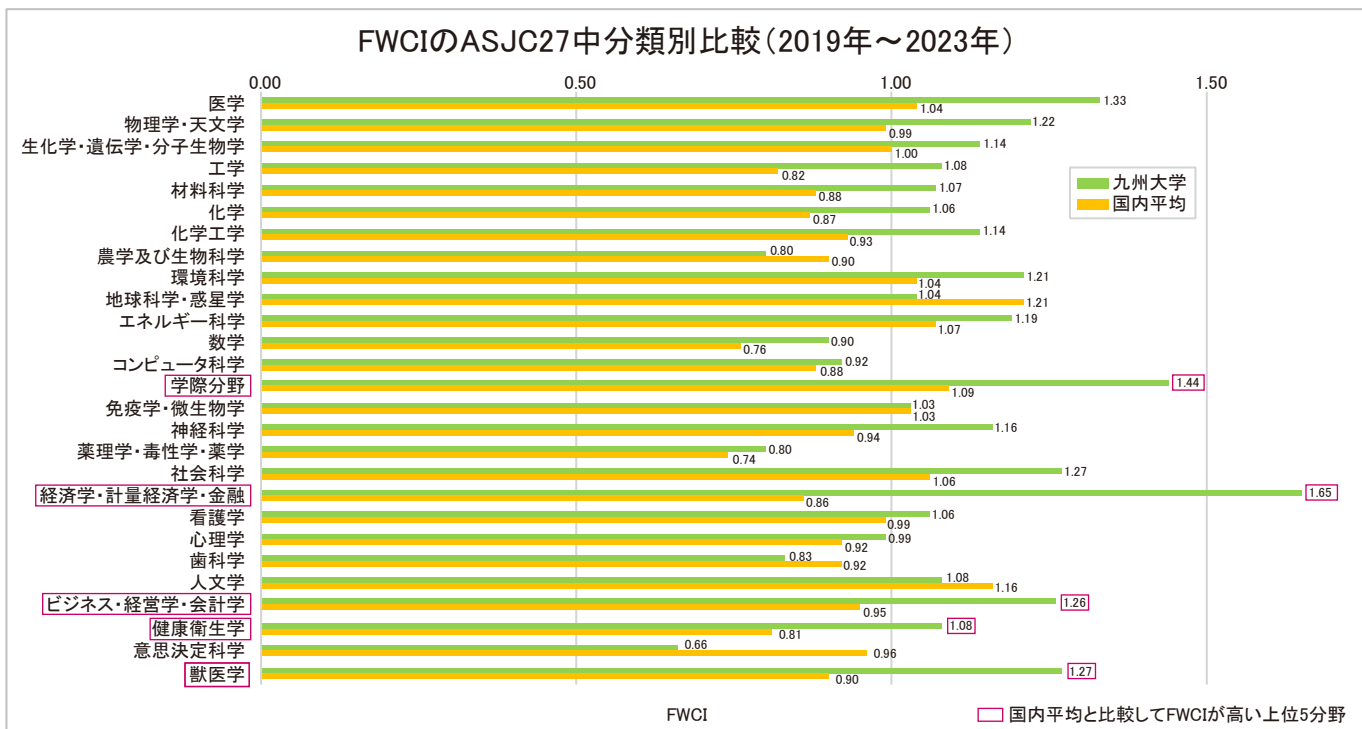
9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■本学と国内平均の比較(ASJC27中分類別) — FWCI —

◆九州大学◆



◆国内平均と九州大学との比較◆



(※1) FWCI(Field-weighted Citation Impact): 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

(※2) ASJC27中分類
Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Science Journal Classification)に基づく27の中分類。

(※3) 論文数が多くFWCIが高いほど研究力に厚みがあること(大学の強み)を表す。また、論文数が少なくFWCIが高い場合は、研究力の高い特定の教員の存在を示す場合が多い。なお、特定の教員が巨大な研究者コミュニティに所属する場合は、論文数・FWCI共に値が高くなる場合が多い。

論文指標の抽出条件

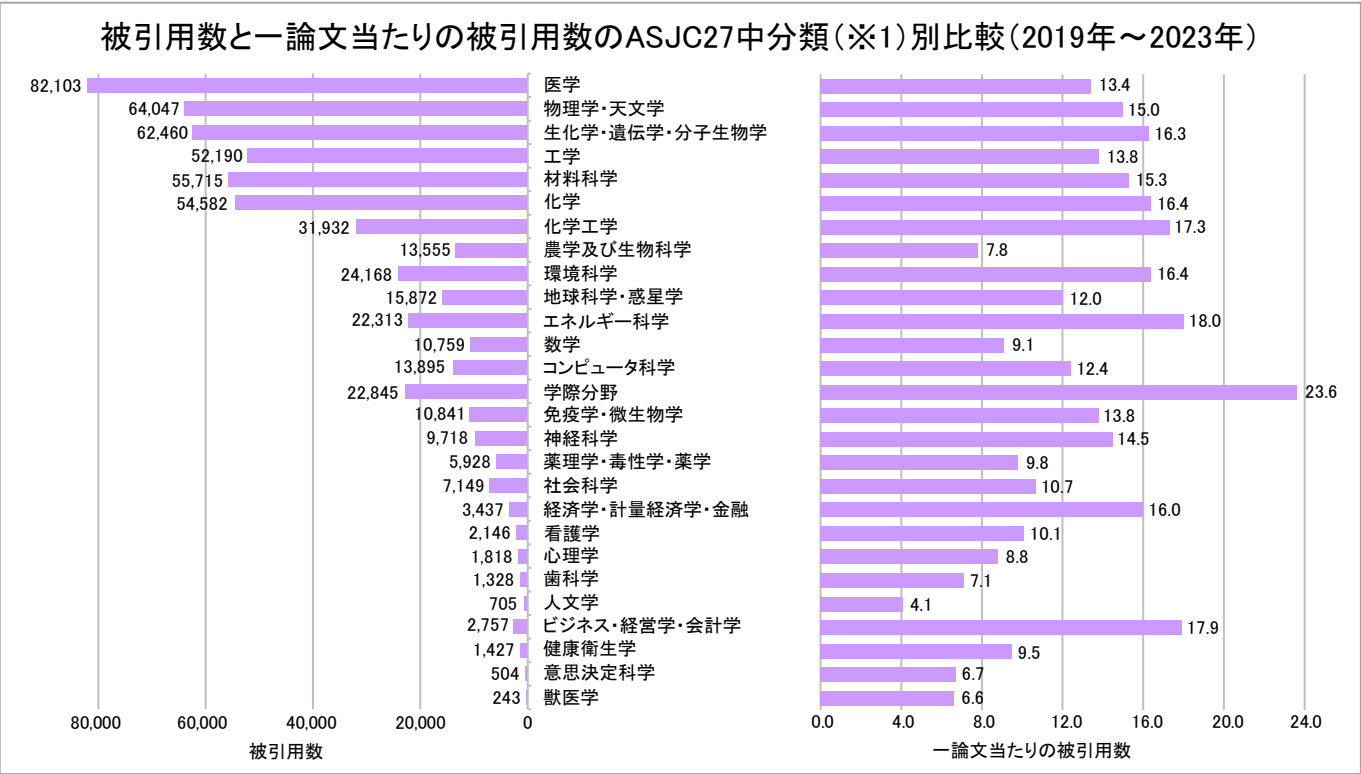
文献タイプ: Articles and reviews、自己引用:含む

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

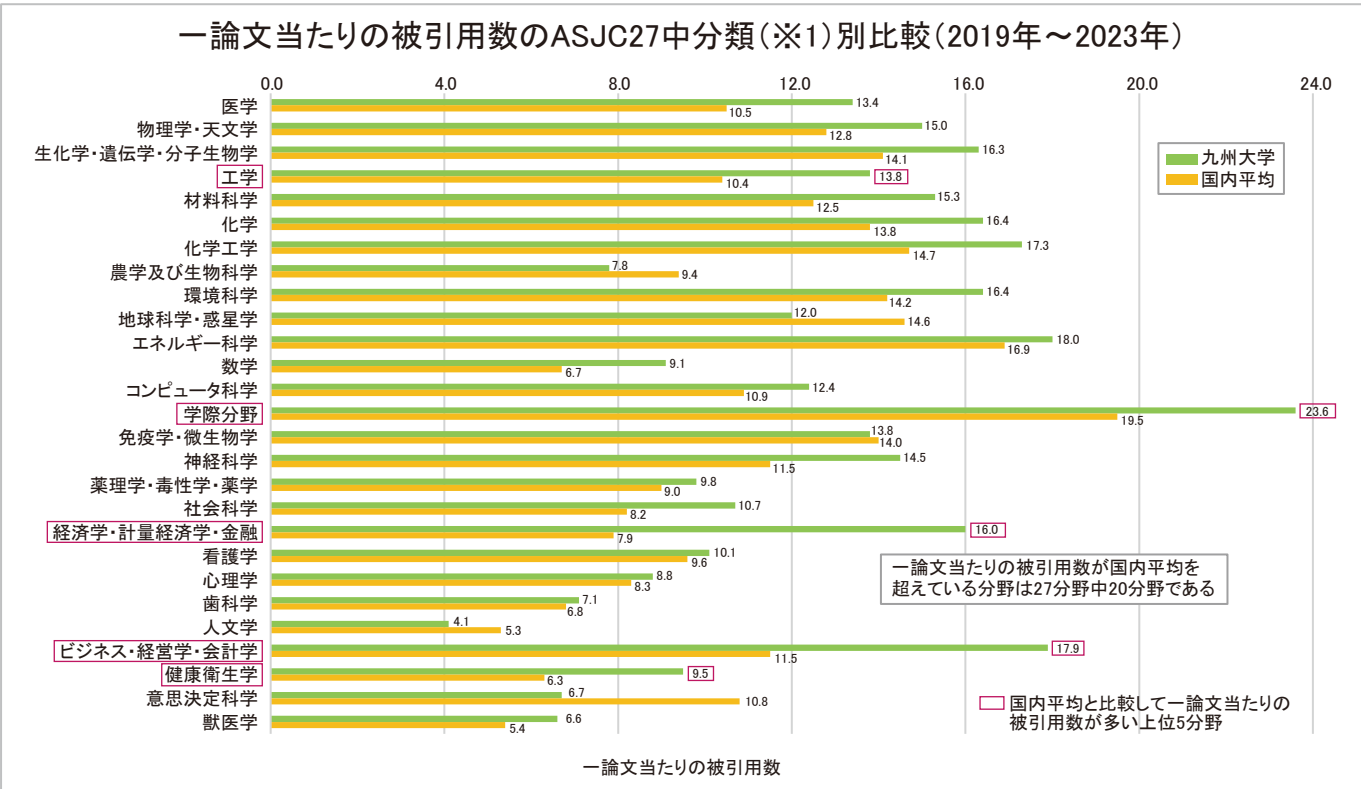
9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■本学と国内平均の比較 (ASJC27 中分類別) — 一論文当たりの被引用数 —

◆九州大学◆



◆国内平均と九州大学との比較◆



(※1) ASJC27中分類
Scopusのジャーナル分類 (ASJC: All Science Journal Classification) に基づく27の中分類。

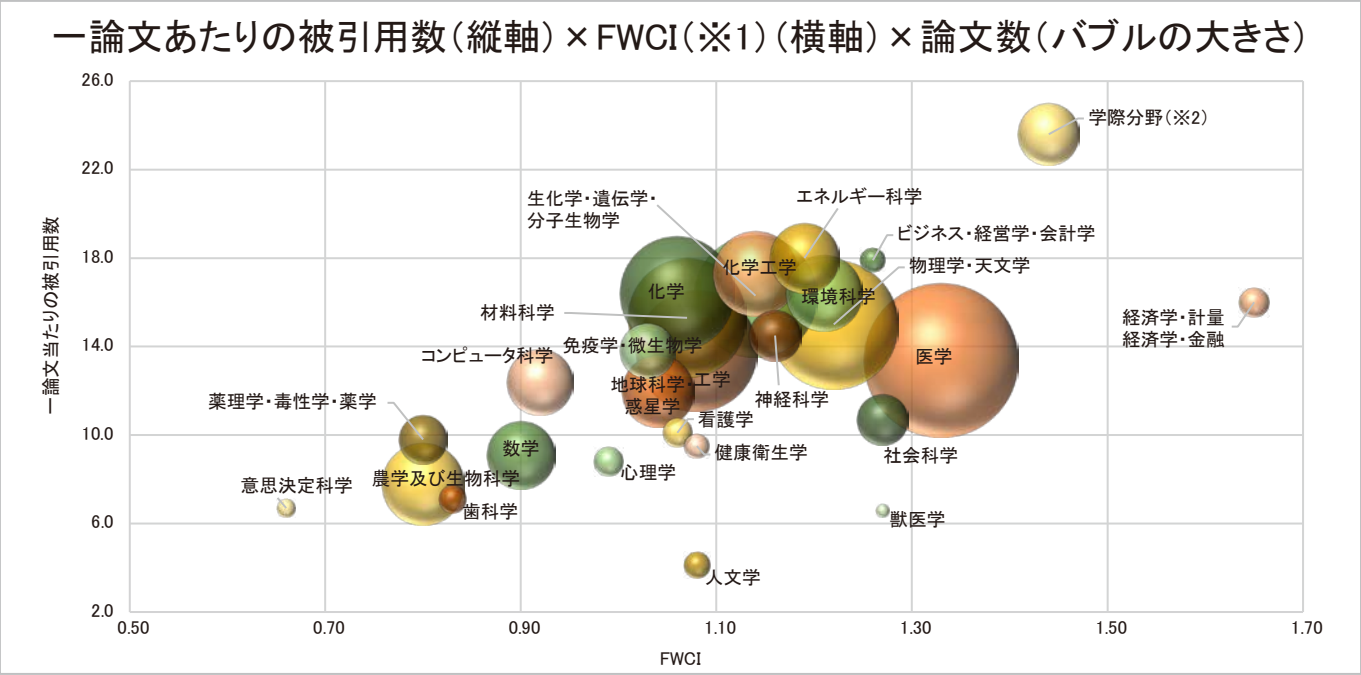
論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■ 本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC27 中分類別) (2019年～2023年)



■ 本学の論文の研究分野についての比較 (ASJC334 小分類別) (2019年～2023年)

【FWCIが高い上位 10 小分野 (※3)】

FWCI 順位	ASJC27中分類(※4)	ASJC334小分類(※4)	FWCI	論文数
1	Nursing (看護学)	Psychiatric Mental Health (精神医学的メンタルヘルス)	10.12	4
2	Arts and Humanities (人文学)	Museology (博物館学)	5.97	1
3	Health Professions (健康衛生学)	Optometry (視力測定)	3.95	1
4	Immunology and Microbiology (免疫学、微生物学)	Parasitology (寄生虫学)	3.84	18
5	Medicine (医学)	Anatomy (解剖学)	3.83	26
6	Medicine (医学)	General Medicine (医学(全般))	3.57	500
7	Veterinary (獣医学)	Equine (馬獣医学)	3.20	3
7	Veterinary (獣医学)	Small Animals (小型動物)	3.20	3
9	Social Sciences (社会科学)	Gender Studies (ジェンダー学)	3.05	4
10	Economics, Econometrics and Finance (経済学、計量経済学、金融)	General Economics,Econometrics and Finance (経済学・計量経済学・金融(全般))	3.03	14

(※1) FWCI(Field-weighted Citation Impact) : 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※2) 学際分野とは、「Nature」や「Science」のような総合学術雑誌に掲載された論文を示す。

(※3) FWCIが世界平均1.0を超えている小分野は、全318分野中157分野である。FWCIが高く論文数が少ない分野は、研究力の高い特定の教員が存在する可能性がある。FWCIが高く論文数も多い分野は、研究力に厚みがあること(大学の強み)を示す。

(※4) ASJC27中分類、ASJC334小分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類。

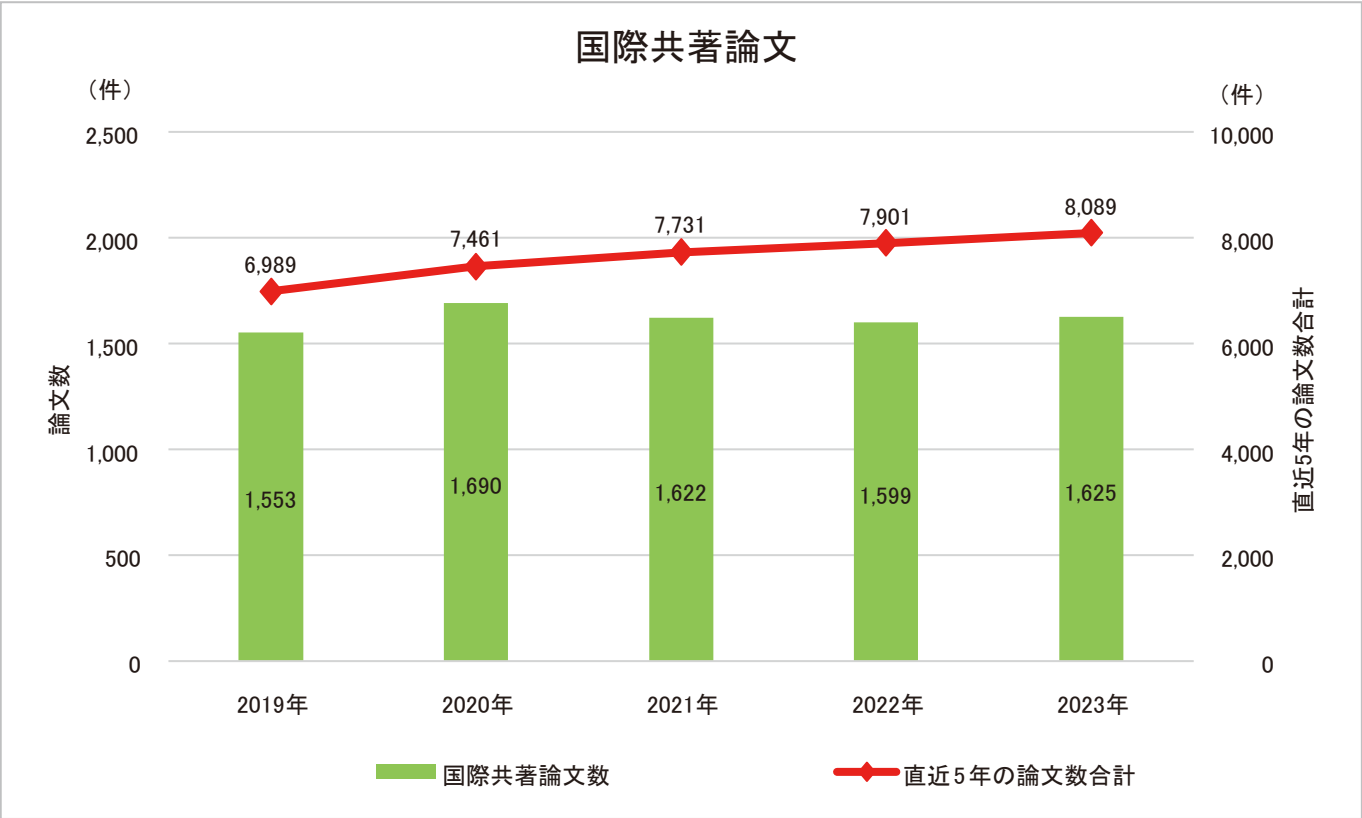
翻訳協力: 大学改革支援・学位授与機構。(中分類の翻訳はエルゼビア社による。)

論文指標の抽出条件

文献タイプ: Articles and reviews、自己引用: 含む

9-3. 国際共著論文

◆九州大学◆



・折れ線は、当該年を含む直近5年の国際共著論文数の合計。

◆ 研究院別 ◆ (2019年～2023年)

順位	研究院	国際共著論文数(合計)(件)	国際共著論文比率(平均)(%)
1	工学研究院	1,101	32.0
2	理学院研究院	1,051	52.5
3	医学研究院	779	17.3
4	農学院研究院	652	42.1
5	総合理工学研究院	532	41.2
6	システム情報科学研究院	416	38.1
7	薬学院研究院	176	28.6
8	歯学院研究院	146	25.2
9	芸術工学研究院	77	26.3
10	比較社会文化研究院	64	41.3
11	数理学研究院	61	28.8
12	人間環境学研究院	47	29.9
13	経済学研究院	30	23.3
14	法学研究院	9	69.2
15	人文科学研究院	3	10.0
16	言語文化研究院	0	0.0

論文指標の抽出条件

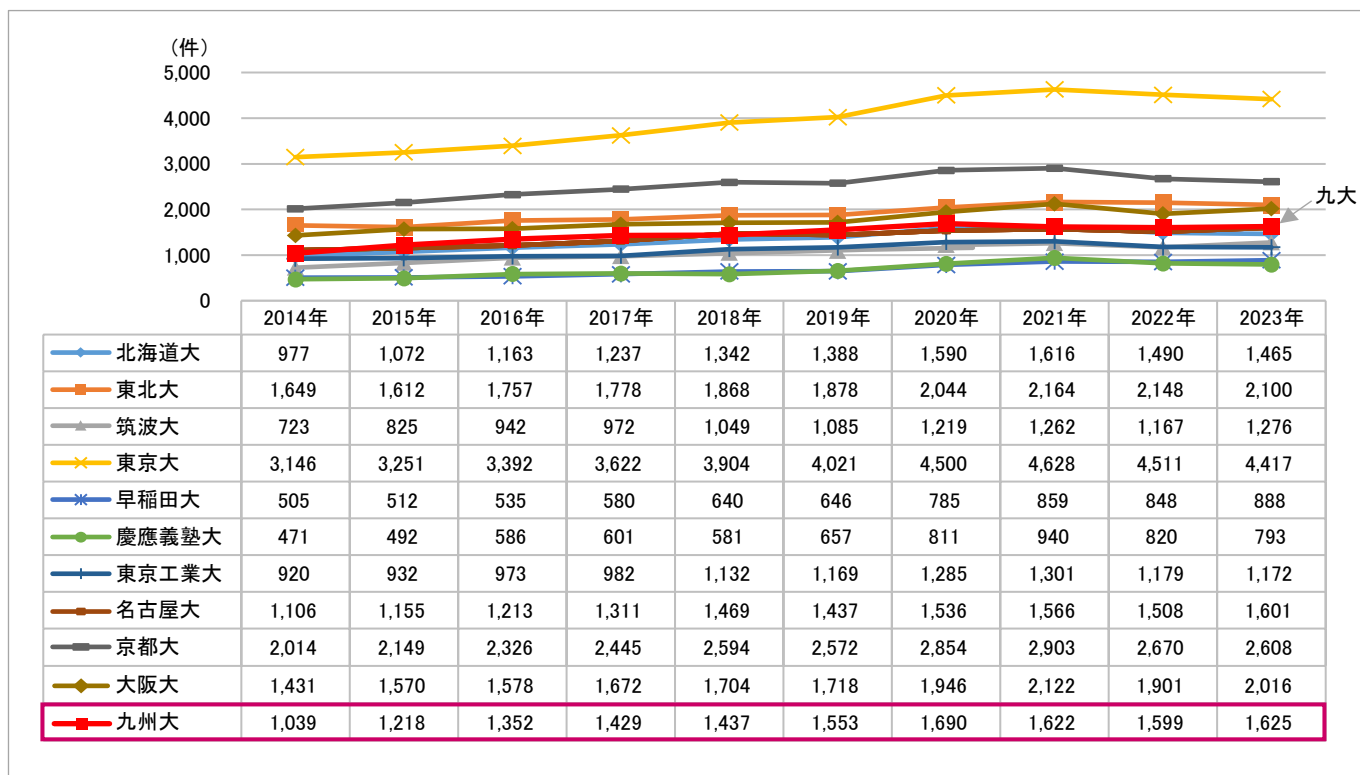
文献タイプ: Articles and reviews、分野補正: 無
・研究院別国際共著論文数: 2024年4月1日時点在籍教員の国際共著論文を集計。(他機関在籍時の論文も含む)

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

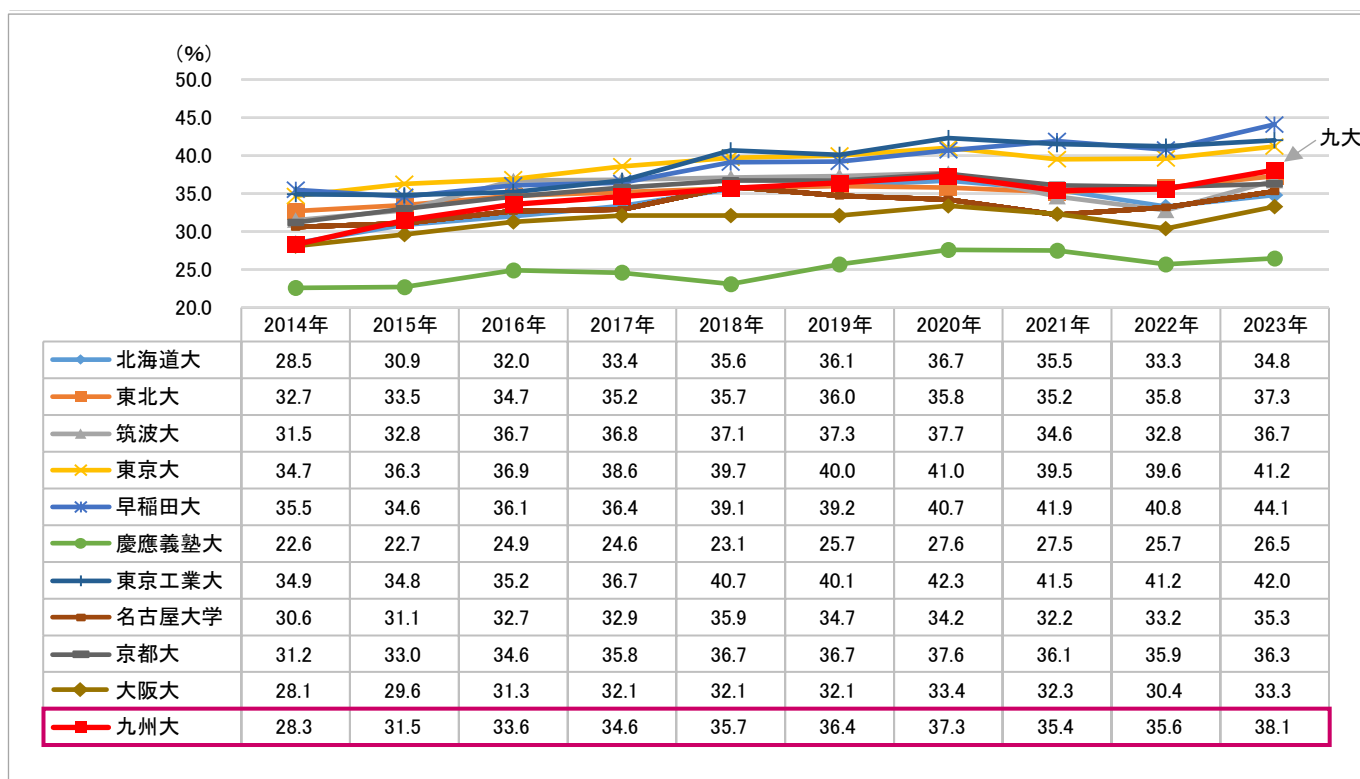
9-3. 国際共著論文(つづき)

◆RU11(※1)での比較◆ (2014年~2023年)

国際共著論文数



国際共著論文比率



(※1) RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム。

論文指標の抽出条件

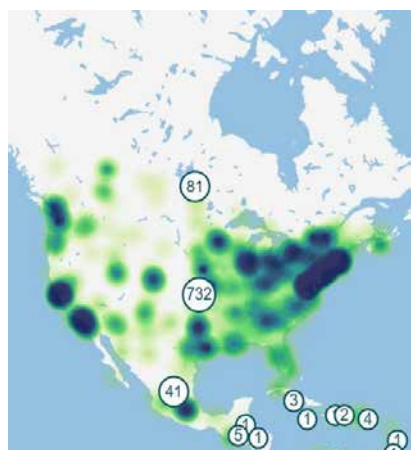
文献タイプ: Articles and reviews、分野補正: 無

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)

9-3. 国際共著論文(つづき)

■世界各機関との国際共著状況(2019年~2023年)

北アメリカ
878機関、3,010件の国際共著論文



ヨーロッパ
1,904機関、3,200件の国際共著論文

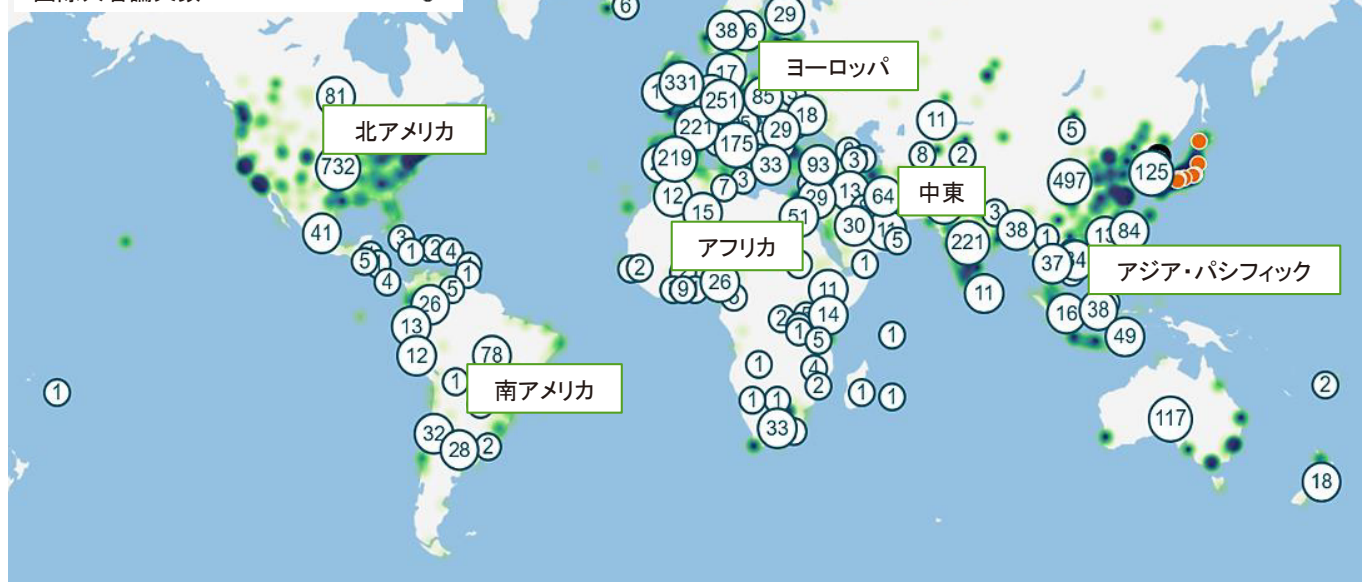


アジア・パシフィック
1,402機関、6,925件の国際共著論文



世界4,893機関、9,607件の国際共著論文

国際共著論文数: Low High



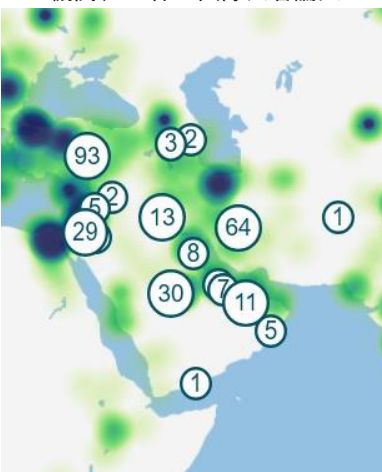
南アメリカ
199機関、662件の国際共著論文



アフリカ
220機関、1,205件の国際共著論文



中東
290機関、997件の国際共著論文



・各地図上の数字は、機関数を表すものである。

論文指標の抽出条件

文献タイプ: All

出典: Elsevier社製「SciVal」(2024年9月現在)